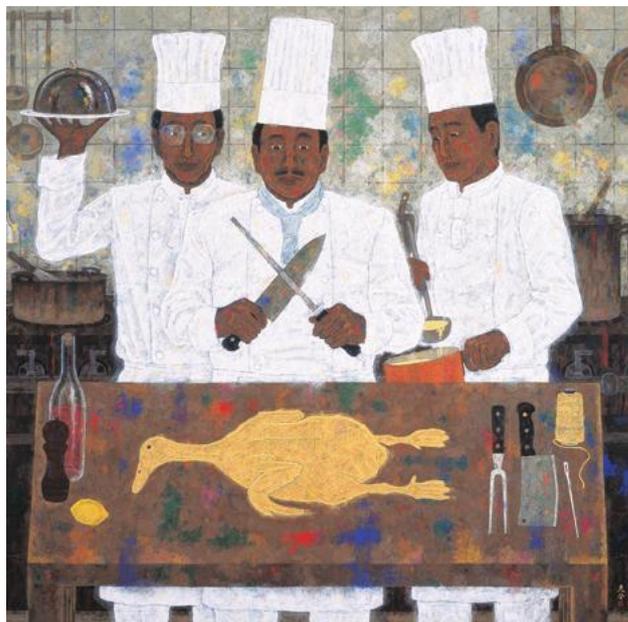


これぞ暁斎！ ゴールドマン コレクション

夏休み親子で楽しむ美術館 アートdeまんぷく



坂根克介 《料理人》

特別陳列 前田家の名宝 I

特別陳列 北陸ゆかりの画聖 I

脇田和 一かくれんぼ

石川のやきもの 青と赤

- 行啓のご報告
- 企画展Topics 燦めきの日本画
- ミュージアムレポート
- 文化財現地見学予告
- 8月の行事予定・ミュージアムウィーク



河鍋暁斎 《地獄太夫と一休》

ゴールドマン コレクション

画像提供：立命館大学アートリサーチセンター

これぞ暁斎！ゴールドマン コレクション

主催：北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館 後援：プリティッシュ・カウンシル、石川県、金沢市、金沢市教育委員会、エフエム石川 協力：日本航空 協賛：東海東京証券

7月29日(土)～8月27日(日) 会期中無休

◆観覧料

前売り・団体 (二〇名以上)	個人	
	一般	高校・大学生
一、〇〇〇円	一、二〇〇円	九〇〇円
七五〇円	九〇〇円	六〇〇円
五〇〇円		五〇〇円

◆お問い合わせ

北陸中日新聞事業部
電話 〇七六一二三三一四六四二(平日10時～17時)

◆前売り券取り扱い場所

チケットぴあ(768-335)、ローソンチケット(54353)、セブンチケット、石川県立音楽堂チケットボックス、香林坊大和PG、アピタ松任ティオ、金沢中日文化センター(めいてつ・エムザ2F)、北陸中日新聞販売店、中日サービスセンター(北陸中日新聞本社1F)

※県立美術館友の会会員は団体料金。身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方は前売り料金。付き添い一人は無料。

河鍋暁斎は、一八三一年に現在の茨城県古河市に藩士・河鍋記右衛門の次男として生まれ、数え年二歳で家族と共に江戸へ移り、一八八九年に亡くなるまで、江戸・東京を拠点に活躍しました。三歳の時、母の故郷に帰る道すがら初めてカエルを描き、七歳で当時の代表的浮世絵師・国芳に入門した暁斎は、十歳で駿河台狩野派の村洞和、ついでその当主・狩野洞白陳信に学び、十九歳の若さで修業を終えました。そして幕末から明治維新、文明開化と時代が大きく激動する中、「狂斎」等の画号で動植物から様々な階層の人々、仏画に妖怪変化などあらゆる対象を、時には優美に、時にはグロテスクに、諸派の学習に裏打ちされた多彩な様式感を駆使して描きました。

また風刺精神も旺盛で、一八七〇年に明治政府の高官を皮肉る風刺画を描いたかどで捕えられています。翌年正月に放免されて号を「暁斎」と改め、絵師としての活動を再開しました。その後、フランス人実業家エミール・ギメや同伴の画家フェリックス・レガメと交流するなど、ジャポニズムの影響下で外国の文化人に高く評価されるとともに、内国勸業博覧会への出品・受賞により公的にも評価されました。

今回の展覧会は、世界有数の包括的で質の高い暁斎コレクションを有する、イギリス在住のイスラエル・ゴールドマン氏の所蔵品から、初出品の作品を多数含む約一六〇点を選んで、近年人気が高まっている暁斎の世界を紹介するものです。

◆記念講演会「暁斎の近代性」
講師：及川茂氏
(本展監修、日本女子大学名誉教授)

日時：七月三〇日(日)午後二時～
会場：石川県立美術館ホール
※先着二〇〇名。開場は三〇分前から。聴講には本展の入場券が必要です。



河鍋暁斎 《百鬼夜行図屏風》 右隻、ゴールドマン コレクション
画像提供：立命館大学アートリサーチセンター

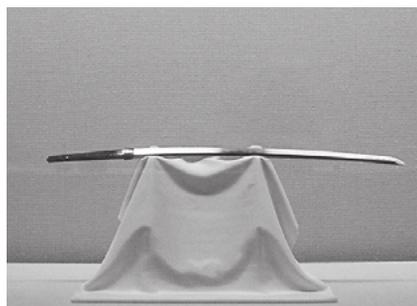
前田家の名宝 I

7月13日(木)～8月27日(日) 会期中無休

学芸員の眼

今回は前田家十六代・利為のコレクションである重文《馬郎婦観音像》を展示して、利為の功績を改めて称揚したいと思えます。日本が戦争に突入してゆく厳しい時代にあっても、前田家が所蔵する文化財の保存と公開のために尽力した利為の姿勢は、前田育徳会尊經閣文庫分館の原点ということができます。また、利為をとおして五代藩主・綱紀が体現した前田家の文武二道の深さを知ることができます。近年の展示にその成果が反映されました。

そこで今回は武の側面からも作品を選び、綱紀が所用した陣羽織や、利常が孫の綱紀の武運長久を祈るために加越領内に居住する刀工二十二人に命じて作らせて高岡の瑞龍寺に奉納した刀のうち、成巽閣が所蔵する長次の一口のほか、鏡、鞍、刀掛を合わせて展示します。この《瑞龍寺奉納刀》も、前田家ゆかりの刀剣としてご注目いただきたいと思えます。



長次《瑞龍寺奉納刀》 成巽閣蔵

前号の続きとして、今回は国宝《万葉集(金沢万葉)》からご紹介します。本文は一面八行書きの体裁をとり、万葉仮名と平仮名は別行として平仮名は一首二行で書かれています。唐紙に七宝繋ぎや亀甲などの様々な文様を刷りだした料紙は、中国からの舶載品をまねて日本で作られたものと考えられています。筆者については、長く平安時代末の歌人・源俊頼(一〇五五～一一二九)とされていますが、現在は筆跡の比較から能書家として知られた藤原(世尊寺)定信(二〇八八～没年不詳)と考えられています。前田家が本書を入手した時期は明確ではありませんが、三代藩主・利常の時代とされています。

今回は、周文筆と伝わる重文《四季山水図》も展示しています。本作は、「秋冬山水図」として指定されていますが、画面を詳しく見ると右隻から左隻にかけて春から冬の時間の推移が描かれていることがわかります。本作についても前田家の所蔵となった正確な時期は不明ですが、儒教や禅への深い関心とともに大名家にふさわしい調度として入手されたものではないでしょうか。

屏風では、《女三十六歌仙色紙雑図》も注目される名品です。八条宮智忠親王に輿入れした利常の四女・富姫の遺愛品で、金地に雉の家族と躑躅など春から夏の草花を描き、その上部に女流歌人三十六人の歌と絵姿を別個にかいた色紙が貼られています。屏風は土佐派の画家が手掛けたものと考えられますが、俵屋宗達の後継者で、利常が注目した俵屋宗雪率いる俵屋の作との可能性も考えられます。

国宝《万葉集(金沢万葉)》 前田育徳会蔵

第6展示室

夏休み 親子で楽しむ美術館 アート de まんぷく

7月13日(木)～8月27日(日) 会期中無休

美術の中の食べ物の歴史をみると、中世のヨーロッパではキリスト教が広まり、美術はその教えを伝えるという役割から、食べ物を特別な意味合いを込めて描いていました。次第に宗教画の一部として描かれた食べ物や器物も、周りの人や背景から切り離され、食べ物などそのものをテーマとして描かれた「静物画」というジャンルが生まれます。その後も、まだまだ宗教画や歴史画の方が価値が高い物として扱われる時代が続いていましたが、十七世紀のオランダで静物画が流行し、果物などの食材は欠かせないモチーフはなってきました。そして、十九世紀には、ありのままの姿を描き出すことが重要視され、私たちがよく目にするような静物画は、ようやく長い年月をかけて、絵の中の脇役から主人公へと

成長してきたのです。ジャンルとして確立した静物画は、十九世紀後半になると、セザンヌやピカソといった近代の巨匠たちの手によって、新しい絵画表現の実験場となっていくます。そして、今日に至るまで画家たちは、いろいろな材料を使って様々な表現方法を考え出し、食べ物も美術作品として表すようになってきており、それは日本においても同様です。食べ物を前にして「おいしそう」という言葉が出るように、今も昔も私たちの食欲と視覚は結びついており、それは食べ物もモチーフとして表現されてきた理由かもしれません。このように食べ物には重要な理由があり、食と美術の関係は、時代や社会を反映しながら変化し、その長い歴史はこれからも続くことでしょう。



田崎昭一郎 《稲穂時絵漆箱》

第2展示室

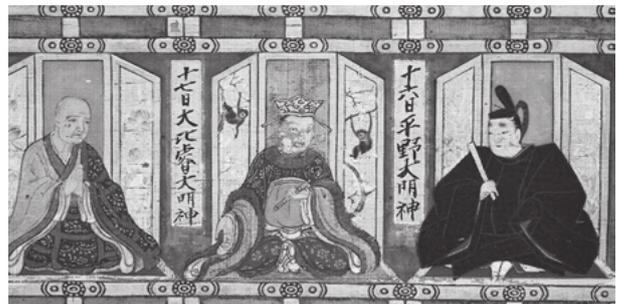
北陸ゆかりの画聖 I

後援：北國新聞社

7月13日(木)～8月27日(日) 会期中無休

八月五日から長谷川等伯(信春)の作品が、重文《日蓮聖人像》から重文《三十番神像》(大法寺蔵)に替わります。三十番神は、ひと月三十日を一日ずつ交替で日本を守る神々で、法華経信仰者を守護する善神として室町時代以降に数多く描かれました。本作は、絹本に縦六列、横五列で屏風を背に座る神々を鮮やかな彩色と金泥により描いています。展示ではご覧になりにくいかもしれませんが、等伯は画中の屏風も丹念に描き、その中には猿や楓など、後年の大画面による名作につながるモチーフを見出すことができます。画面の墨書から、永禄九年(一五六六)等伯が二十八歳の時に描いたことがわかるほか、胡粉を盛り上げてその上に金泥を塗るという京都から広まったとされる手法が用いられていることが、等伯

は若年時から能登と京都を往復して研鑽を積んでいたことを示すなど、等伯の画業を考える上でも重要な作品の一つです。前号でもふれましたように、等伯と京都を結ぶ法華宗のネットワークには絵屋の俵屋が深く関わっています。画工としての俵屋宗達と、等伯との接点を否定することはできません。そして、宗達とほぼ同世代と推定される岩佐又兵衛が、京都で等伯や宗達そして宗雪と接触があったのかも興味深いところです。「廻国道之記」によれば、又兵衛は豊臣秀吉が主宰した「北野大茶会」を見物しています。父・荒木村重と利休の親交を思えば、又兵衛は利休に特別な思いを抱いていたかもしれません。そこで利休の画像を描いている等伯との接点も考えてみたいところです。



重文 長谷川等伯(信春) 《三十番神像》(部分) 大法寺蔵

第5展示室

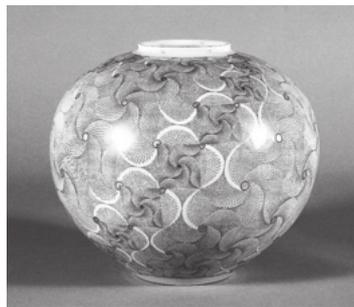
石川のやきもの 青と赤

7月13日(木)～8月27日(日) 会期中無休

先月に引き続き第五展示室では、近現代陶芸作品の「青と赤」というテーマで展示をおこなっています。出品作家を何人かご紹介しましょう。本特集の「青」の作品の中でも《彩釉》人間国宝の三代徳田八十吉は、美しいグラデーションの作品とともに一般の方にもよく知られている作家の一人です。

今回、徳田に師事した二作家、宮西篤士と田島正仁の作品もご覧いただけます。また「赤」のパートでは、精緻な赤絵が評価されている福島武山の作品とともに、福島に師事した見附正康の作品も展示します。師に学んだ技術を活かし、どうやって独自の作風を生み出すのか。師の作品と比較することで、作品の新たな魅力とそれぞれの作家の創意を感じていただければ幸いです。

第五展示室では、本特集以外の近現代工芸作家の作品、漆芸・染織・金工・木工も併せて展示しており、壁面展示ケースの一部を使って、茶道具の取り合わせ展示もおこなっています。水指は飛魚をモチーフとした北大路魯山人の作品で、海面から跳ね上がる飛魚を染付ですっきりと表したものです。金沢最後の文人と称された細野燕台を介して初代須田菁華に師事し、陶芸家としての道を歩み始めた魯山人は、常に実用を意識した制作を心がけました。夏の取り合わせにふさわしい水指です。薄茶器《千鳥蒔絵棗》を制作した松田権六は、漆聖―漆の神様とも呼ばれ、近代漆芸に大きな足跡を残した蒔絵の人間国宝です。浜千鳥のモチーフの千鳥を蓋に、砂浜を螺鈿と金で表現しています。特集と併せてお楽しみください。



福島武山 《赤絵壺「かざりはな」

第4展示室

脇田 和 ―かくれんぼ―

7月13日(木)～8月27日(日) 会期中無休

脇田作品には、窓の奥に人影や顔がうかがえる構図がよく見られます。今回の展示では《窓(ベニス)》、《裏町の居酒屋》、《窓際の瓜》、《緑の壁》、《双鳩》、《宵》がそうですし、四角の中に顔が描かれる《二組の家族》、《S子のベット》、《二つの顔》、《時計》などはそのバリエーションといえるでしょう。

つまり、四角形と人、鳥との組み合わせが、脇田作品の大きな特徴なのです。別々の空間を組み合わせて、しかも多くは一見無頓着なように、たとえば箱の中におもちゃが散らばって入れているように、描かれます。一点透視図法や遠近法などといった西洋的視点はありません。明治以前の日本の絵画空間、絵巻や洛中洛外図、あるいは曼荼羅などのモチーフの並列配置が、柔らかな色調と相まって、ほのぼのと

した情感を醸し出すのです。

さて、前回の日よりでは、脇田作品を(一財)脇田美術館よりご寄附いただいたと述べましたが、そのご縁で当館と軽井沢の脇田美術館では相互サービスを行っています。

現在、脇田美術館では「脇田和展 鳥と、慈しむものたち」と(一)十月二十八日(土)を開催しています。当館の友の会会員カードやコレクション展・企画展有料観覧券の半券を脇田美術館で提示されますと各種の優待サービスを利用できます。また脇田美術館での有料観覧券の半券を当館で提示いただくと観覧料が団体料金となります。



脇田 和 《二組の家族》

皇太子殿下啓のご報告

平成29年6月9日(金)

六月十日に金沢市で開催された「第二十八回全国みどりの愛護のつどい」の式典に出席のため、四年ぶりに来県された皇太子さまは、式典に先立って九日には、石川県文化財保存修復工房を視察されました。石川県立美術館長・石川県文化財保存修復工房長の嶋崎丞と、(一財)石川県文化財保存修復協会の中越一成代表によるご案内で、秋葉神社(金沢市金石)が所蔵する江戸時代後期の「紙本着色 芝居絵奉納絵馬額」の、絵具の剥落止めやにじみ止めの修復作業をご覧いただきました。皇太子さまは「どのような絵の具が使われていますか」「次に行う作業はどのような内容ですか」などお尋ねがあり、「根気のいる大変なお仕事ですね」と述べられるなど、修復工程に高い関心を示されました。視察の後、玄関前でのお見送りの際には、修復作業にあたった川口法男技術責任者や梶青華技師に、ねぎらいと励ましのお言葉がありました。また、一般のお見送りの方々お一人おひとりにも気さくにお声をかけられるなど、誠実で温かなお人柄をあらためて感じる一時でもありました。

皇太子さまは、「文化財の保存修復やその技術を継承するために若い技術者育成に取り組んでいること、さらには全国初の修復作業の常時公開に感銘を受けるとともに、あらためて文化財を後世に継承していくことの重要性を感じた。地味で根気がある仕事に高い志を持ちながら、その大切な課題に取り組んでいることをうれしく思う」と感想を述べられました。



企画展Topics

燦めきの日本画 —石崎光瑤と京都の画家たち—

9月23日(土・祝)～10月22日(日) 会期中無休

この秋、近代日本画の魅力を紹介する企画展「燦めきの日本画」。明治維新を経て、新たな局面を迎えた近代日本絵画は、この時期、青年たちの熱とみずみずしい感性で、目を見張る「日本画」となって数々の傑作を生み出しました。その様相は文字通り燦めいていたのです。本展では石崎光瑤とその師竹内栖鳳を軸に、近代京都画壇の様子を紹介します。

本展の主人公である石崎光瑤について語りましょう。光瑤は明治十年、富山の福光に生まれ、金沢で琳派の絵師山本光一にも師事した北陸にゆかりの深い作家です。文展、帝展で特選となり、幾度となく審査員をつとめるなど画壇の中央で活躍した作家といえます。しかし残念ながら、近代日本画を語るべき、同時代に生きた土田麦僊らに比べ、とりあげられることが少ないことも事実です。本展では当時の京都画壇らしさを感じさせる光瑤作品も味わいながら、同時代を圧倒した《熱国妍春》や《燦雨》といった代表作を通して、光瑤芸術の粋を堪能ください。そこから、京都で師事した竹内栖鳳の指導性を感じることが出来るでしょう。また、若き日に培った琳派的感性が大いに活かされていることもわかるでしょう。そして、あらためて光瑤の個性と、たしかな画力を知ることとなるでしょう。

今回は、光瑤を初めとするその時代の画家たちが、次世代に与えた影響を紹介します。



石崎光瑤 《燦雨》左隻、福光美術館

友の会 文化財現地見学予告

石川県立美術館友の会では、毎年秋に一泊二日の日程で、学芸員と行く「文化財現地見学ツアー」を企画しています。第四十八回の今秋は、「兵庫の文化を味わう―快慶仏からハイカラ神戸まで(仮)」と題して、次のような行程を予定しています。

◆開催日時 一〇月二一日(土)午前七時頃 金沢駅発
一〇月二二日(日)午後七時頃 金沢駅着

◆訪問場所 白鶴美術館、香雪美術館、兵庫県立美術館、浄土寺、篠山城大書院、丹波古陶館、篠山能楽資料館

◆移動方法 貸切バス

具体的な旅程やお申し込み方法等については、来月号の美術館だよりでお知らせいたします。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

ミュージアムレポート 学校出前講座

今年度も学校出前講座の季節がやって参りました。この出前講座は開催できる学校数が十校となっておりますが、今年もその枠を上回る応募がありました。今まで開催したことがある学校のご応募も多かったのですが、今年は加賀市からかほく市までの未開催校を中心に開催いたします。

その中でも内灘町は今まで開催が少なかった地域で、この出前講座で作品鑑賞の楽しさを、たくさんの子どもたちに伝えて行きたいと思っています。

六月には十五日に加賀市立作見小学校、二十三日には内灘町立鶴ヶ丘小学校、二十七日には加賀市立錦城小学校で開催いたしました。

このあと九月下旬から十一月にかけて残り七校で開催予定です。



夏のミュージアムウィーク

いよいよ夏休み！兼六園周辺文化の森を満喫する「夏のミュージアムウィーク」。当館関連イベントをご紹介します。

◆講演会「つがわの工芸の巨匠に聞く」

日時 八月二二日(土)午後三時～
講師 大樋陶冶斎氏(文化勲章受章者「陶芸」)
進行 秋本和美氏(フリーアナウンサー)
会場 県立美術館ホール、定員は先着二〇〇名、要申込

◆工芸制作体験ワークショップ「加賀水引であわじ玉のネックレスを作ろう」

日時 八月二二日(土)①午後一時～二時、②午後二時～三時
会場 県立美術館講義室、定員は各回先着一五名、要申込
参加費 一五〇〇円

いずれのイベントも、

お申し込みは県文化振興課(〇七六―二五―二三七)または兼六園周辺文化の森ホームページのイベント申込フォームより。

◆夜間開館延長！

八月四日(金)、五日(土)、一三日(日)は午後九時まで開館延長を行います。午後六時～九時までの間は、二階コレクション展を無料で開放いたします。※ただし「これぞ暁斎！」は午後六時で終了します。

会期：平成29年9月23日(土・祝)～10月22日(日)



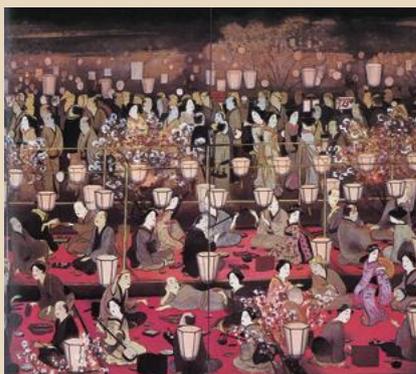
石崎光瑤《白孔雀》大阪新美術館設立準備室蔵



竹内栖鳳《百騷一睡》大阪歴史博物館蔵



土田麦僊《髪》京都市立芸術大学蔵



村上華岳《夜桜の図》京都国立近代美術館蔵



上村松園《花》姫路市立美術館蔵

次回の展覧会

平成29年8月31日(木)
～10月2日(月)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
前田家の名宝Ⅱ		北陸ゆかりの画聖Ⅱ	
第3展示室	第4・6展示室	第5展示室	1F企画展示室
鴨居玲 —酔って候—	優品選 (絵画・彫刻) 石川と京都 (日本画)	秋の優品選	燦めきの日本画 —石崎光瑤と京都の画家たち— 9月23日(土・祝) ～10月22日(日)

ご利用案内
コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(8月は7日)
今月の開館時間 午前9:30～午後6:00
カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休
8月の休館日は 28日(月)～30日(水)

ガン保険
チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

既にガン保険にご加入されている方に
追加のご加入で、ガンでの通院治療の保障を充実

●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・保険期間・保険料
ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円) 払込期間：終身

●特約：ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除

●保険期間：保険料払込期間：終身

月払保険料 1,500円 (35歳男性) / 1,500円 (43歳女性)

月払保険料 3,216円 (40歳男性)

自由設計プランで、ガンでの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

広告

今、ガン保険にご加入されている方も、ご加入されていない方も今すぐチェック!

0037-6001-67456

広客有効期限：2018年2月28日 募集16004-20160112
受付時間：10時～19時(日曜定休)

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。ZURICH 株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-18

※記載の保険料は2015年7月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。

石川県立美術館だより
第406号(毎月発行)
2017年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>